

**【目指す児童像】**やさしい子  
元気な子  
よく学ぶ子

ホームページ

はち まん

**八幡の森**

学校だより 第12号

令和5年12月22日

宇都宮市立昭和小学校

発行責任者 宮澤文洋

**子供たちの冬休み**

令和5年度がスタートしてあっという間に年の瀬です。子供たちは、12月26日から14日間の冬休みに入ります。2週間という休業期間になりますので、飛び出し等の交通事故防止、それから、各学年だよりで御案内のとおり、一人一台端末やスマートフォンからゲーム等で活動させる際は、可能な限り御家族の目の届くところで、ルールを守って取り組むよう御指導願います。ゲーム回線を通じて、見知らぬメンバーと文字や音声でつながり、安易に個人情報や教えたしまった、顔写真を送ってしまった、実際に会いに行ってしまったなどの事案が、市内でも増加してきていると聞いています。「使用させない」という考え方ではなく、「上手に使う」ことが求められています。

**冬休みも、お手伝いを ~自己有用感の高揚へ~**

夏休みや学期間休業に引き続き、冬休み期間中もお子様を家の手伝いに誘ってくださるようお願いいたします。お手伝いは、させようとするのではなく、日頃から親子で会話し、学習や生活の相談にのったり、一緒に楽しい時間を共有したりすることで、子供は自然と家事に誘われ、「やらされている」ではなく「役に立ててうれしい」となっていくものだと思います。日頃の関わりをベースに、低学年では自分の服をたたむ、遊んだ場所を掃除するなど、自立的な行動と結びつけるのもよいと思います。いずれにしても、親子で楽しく会話をしながら取り組むことが大切です。今後、子供たちが、自らの力で自分の未来を力強く切り拓いていくことを考えると、その基本となる家庭の中で「自立」し、「役に立つ存在」「頼りになる存在」として認められることは、外の社会に胸を張って踏み出していけることにつながっていくと思います。お手伝いを通じて、子供が一人前として認められることは自己有用感を高め、自分に対する誇りをもつことにつながります。お手伝いも重要な家庭教育であると考えます。

**訓練は本番のつもりで**

12月2日(土)、土曜授業の3校時目に、大地震発生を想定した児童引き渡し訓練を実施しました。御家族の皆様には、1校時の授業参観に引き続き、3校時目の対応ということで、午前中のうちに何度も学校にお運びいただくことになりました。御協力に感謝いたします。さて、今回の訓練の大地震、これは震度5以上の地震を想定しています。当日配信したメールでもお知らせしましたが、本来、震度5以上の地震発生の際は、自動的に児童引き渡しとなるため、さくらメールは活用しないこととなっていますので、今一度、学校ホームページに掲載の【保存版】「緊急時の児童引渡しについて」の確認をお願いします。この保存版が、想定されるすべての緊急時マニュアルとなります。今回も、引き渡しの際は、確認作業を幾重にもさせていただきました。これは、パニックで大混乱になっている中、確実にお子様を御家族のもとに引き渡すためです。時間がかかりましたが、「訓練は本番のつもりで」で取り組ませていただきました。そして、その間静かに待っていてくれた子供たちには、心から感謝です。



## 昭和小わくわくまつり ～2年生 生活科～

2年生が「昭和小わくわくまつり」を開催しました。12月8日開催では1年生や先生方をお招きし、18日開催では幼稚園生を招待しました。本番前には、2年生だけで試しのお祭りを実施し、他グループの「おみせ」のよさや改善点について、気付きを伝え合う作業をしています。それらをもとに、1年生や幼稚園生に対して、遊び方の説明、クリアーするためのコツの説明などをしました。2年生になると活動しながら刻々と変わる状況に柔軟に対応できるようになります。くじを引いてはずれが続いた際には、当たりが出るまで対応していました。景品が足りなくなってしまった際には、「今から作るので他のお店で遊んでてください。でも、必ず景品を取りに来てください。」と対応していました。これらは、ほんの一部だと思います。子供たちは、生活科での活動はもとより、学校での様々な経験を自分のものにして、そして活かしていることが伝わりました。



## あいさつ1つで笑顔が2つ

子供たちと挨拶をしていると「おはようございます」と、満面の笑顔で挨拶してくれたり、立ち止まって丁寧に挨拶してくれたり、大きな声で挨拶してくれたりします。児童会計画委員会では、あいさつ運動に取り組んでいます。自主的にあいさつ団を結成した2年生もいます。彼らが定位置に着くと、パッと明るい雰囲気になります。また、校内で出会うと、笑顔で「こんにちは」と挨拶してくれる子もいます。子供たちの笑顔と挨拶で温かい気持ちになったり、元気をもらったりします。挨拶は相手意識や思いやりの表れであり、コミュニケーションの基本だと思います。人の心を明るくする笑顔や挨拶は、素晴らしい力だと思いますし、素敵な人柄が伝わってきます。年末年始は日頃の挨拶に加え、季節の挨拶の時期でもあります。あいさつ1つで笑顔が2つになれるよう、御家庭でもお声かけをお願いいたします。



## 褒めるシリーズ「豪快に褒める」

下校指導の際、朝の雨があがっていたため、ある子に「傘は？」と声をかけました。その後、傘を取りに戻って、昇降口から出てきた際に発した言葉です。「校長先生ナイス！さすがです！」そこまでみんなに聞こえるように豪快にお褒めにならなくても……。と感じながらも、心の中では「こんな風に褒められるのもうれしい」が広がりました。周りが気にならないほど感激してくださったのだと思います。

褒めるシリーズではありませんが、エピソードを紹介します。前述の豪快に褒めていただいた後、別の子から「校長先生どうしてマスクをしているの？」と聞かれ、「咳がひどくてね。(ゴホン、ゴホン)」と答えました。すると「校長先生、下手……。」えっえ～っ!? 仮病じゃないんです。本当に喉が辛いのです。その後、なぜ「下手」と返したのか考えてみました。勝手に想像するに、校長先生は何でも知っている人、病気になんかならない人というイメージがあるのでは？と考えました。そのように期待していただいているのであれば、応えなくてはなりません。しかと健康管理に気を付けます。反省。

保護者の皆様及び地域の皆様には、本年も、本校教育活動に対しまして、たくさんのお力添えをいただきありがとうございました。新しい年が皆様にとってすばらしい年となりますようお祈り申し上げます。